

富良野市における調査結果の概要

令和5年9月 富良野市学力向上推進プロジェクト

令和5年度全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、第1次富良野市教育振興基本計画の基本理念「自立と共生の未来を拓く 心豊かでたくましい人を育む」のもと、教育の原点である知・徳・体の調和のとれた子どもたちの着実な育成を基本に「すべては子どもたちのために」を合い言葉に、子どもたちの無限の可能性を伸ばす教育の充実に努めてきました。

全国学力・学習状況調査の結果は、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、今後の本市の教育施策や学校の取組に生かしながら、本市教育を一層充実させてまいります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

今後も、これまでの取組の成果を生かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

なお、この調査結果は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながることはないようご理解をお願いいたします。

1 調査の概要

◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる
- 以上のような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

◆調査日

令和5年4月18日（火）

◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

◆調査事項

- 児童生徒：教科調査(国語、算数・数学、英語〔中学校〕)、質問紙調査
- 学 校：質問紙調査

◆調査問題

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- ・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。

◆今年度の調査の特徴

- ・中学校で4年ぶり2度目となる英語の教科調査を実施。
(「話すこと」調査については、1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。)
- ・質問紙調査について、学校質問紙は全ての学校で、児童生徒質問紙はほぼ全ての学校でオンライン方式により実施。

2 教科に関する調査結果の概要について

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、「平均正答率を全国平均以上にする」ことを目標に掲げております。

【小学校】

国語は、全国平均正答率と同等※でした。算数は、全国平均正答率と同等でした。

【中学校】

国語は、全国平均正答率と同等でした。数学は、全国平均正答率と同等でした。

英語は、全国平均正答率と同等でした。

※ 全国平均正答率との差が3ポイント以内

小学校第6学年では国語、算数で全国平均正答率と同等、中学校第3学年では国語、数学、英語で全国平均正答率と同等という結果になりました。

このことは、道教委事業（授業改善推進チーム活用事業【令和2～4年度】）による小学校のTT指導、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、学校司書の配置による読書活動の推進、小中連携の取組、キャリア教育の推進、小規模校での個別最適化された学びの充実、教職員の加配による指導方法工夫改善の取組、特別支援教育支援員の配置、長期休業中の「学習サポート」による学習内容の着実な定着、「イングリッシュキャンプ」等による外国語教育の推進、演劇手法を取り入れたワークショップによるコミュニケーション能力の向上、GIGAスクール構想に基づくICT活用の推進による成果であると考えられます。

この調査結果を踏まえ、『第1次富良野市教育振興基本計画(令和5年度～令和7年度)』を基軸とし、学力向上に向けた質の高い教育活動が展開できるよう推進していきます。

『第1次富良野市教育振興基本計画(令和5～7年度)』

第1次富良野市教育振興基本計画(令和5年度～令和7年度)は、「自立と共生の未来を拓く心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。

子どもたちに変化の激しい時代を生き抜く力を育み、生涯にわたって活躍できる人材を育成することが求められていることから、第1次富良野市教育振興基本計画を策定しました。

第1次

富良野市教育振興基本計画

未来を切り拓く人づくり 豊かな心を育むまちづくり

令和3年度～令和7年度

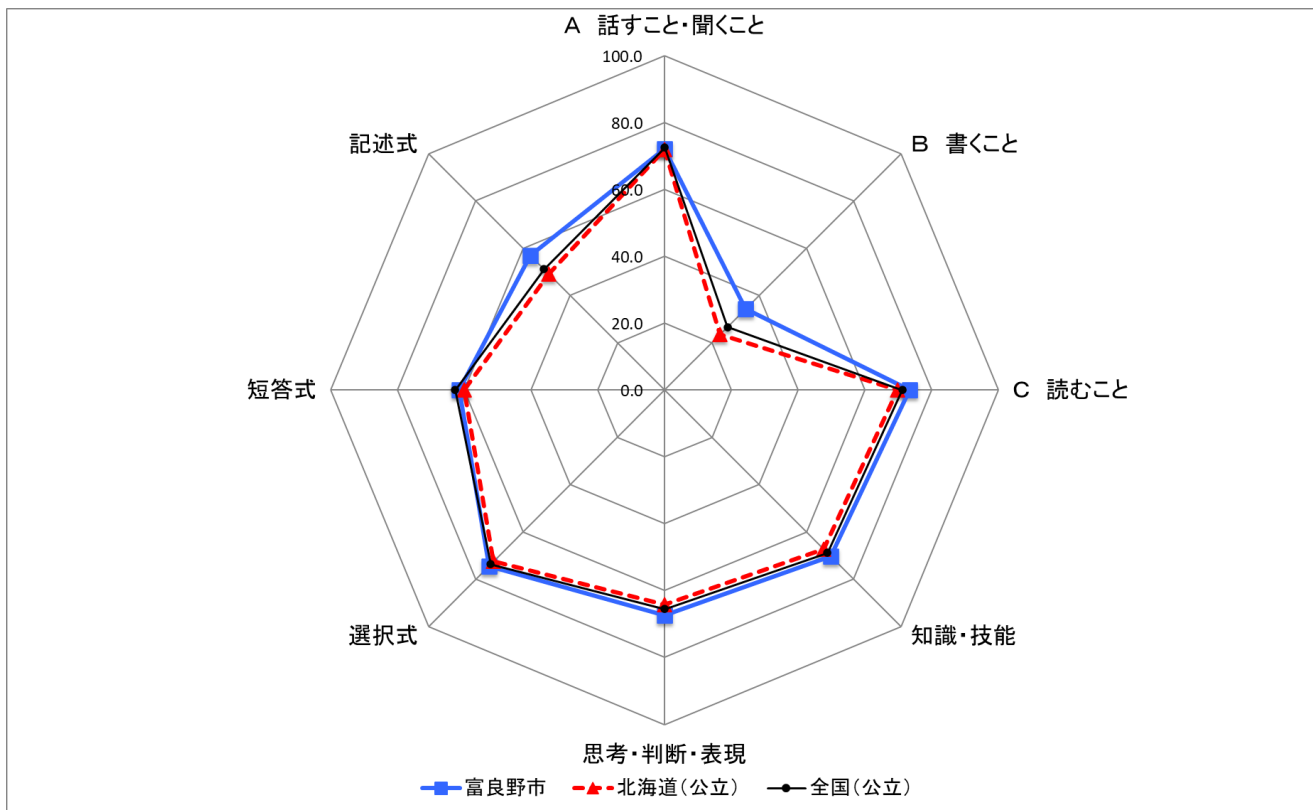
富良野市教育委員会

3 各教科の領域別の状況

- ◇…比較的できている点
- ◆…課題のある点

小学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



〈調査結果のポイント〉

- ◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することは、比較的できている。
- ◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

情報の扱い方に関する事項

- ◆情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。



指導改善のポイント

図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、そのよさを実感できるように指導すると効果的である。

書くこと

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。



指導改善のポイント

図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。このような図表やグラフを用いる方が自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものとなることを実感できるように指導すると効果的である。

読むこと

◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することは、比較的できている。

◆複数の資料を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。



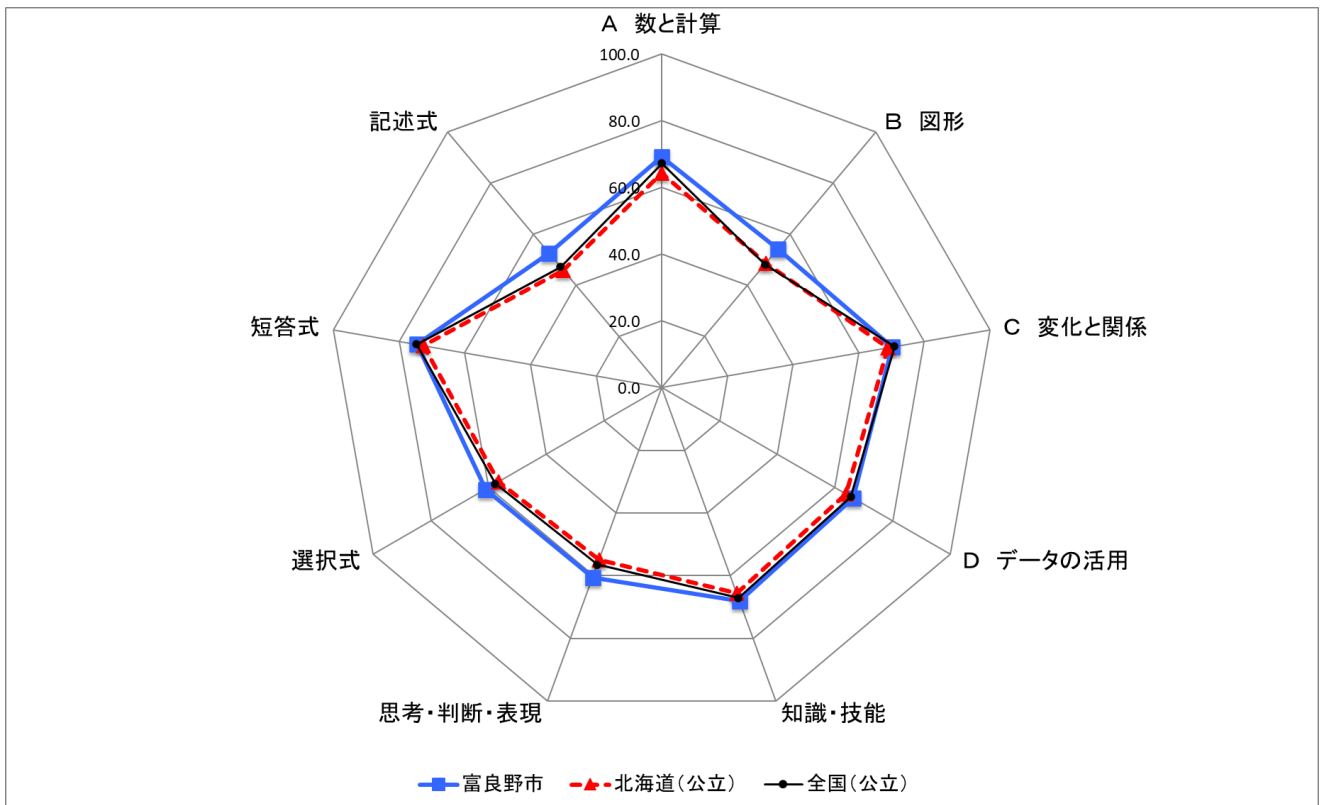
指導改善のポイント

文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。そのためには、文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識してまとめることができるように指導することが大切である。また、複数の文章を読むなどして、文章をよく理解したり、自分の考えを広げたりすることができるように指導することも大切である。

児童によっては、書かれている内容を捉えることが難しい場合は声に出して読むことで書かれている内容を大づかみに捉えることができるようにしたり、教師と一緒に読んで児童の理解を助けたりして指導すると効果的である。

小学校算数

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの



〈調査結果のポイント〉

- ◇ 式を日常生活に関連付けて読み取ることはできている。
- ◆ 図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察することに課題がある。

● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

数と計算

- ◇ () を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることはできている。
- ◆ 示された日常生活の場면을解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断することに課題がある。



指導改善のポイント

日常生活の問題を解決するために、場면을解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導することが重要である。

図形

- ◇ 正方形の意味や性質について理解することはできている。

- ◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。



指導改善のポイント

具体的な数値が示されていない場面において、問題を解決する際に必要な情報を主体的に見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えることができるように指導することが重要である。

変化と関係

- ◇伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることはできている。
- ◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述することに課題がある。



指導改善のポイント

伴って変わる二つの数量について、比例の関係にあることを用いて、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるように指導することが重要である。

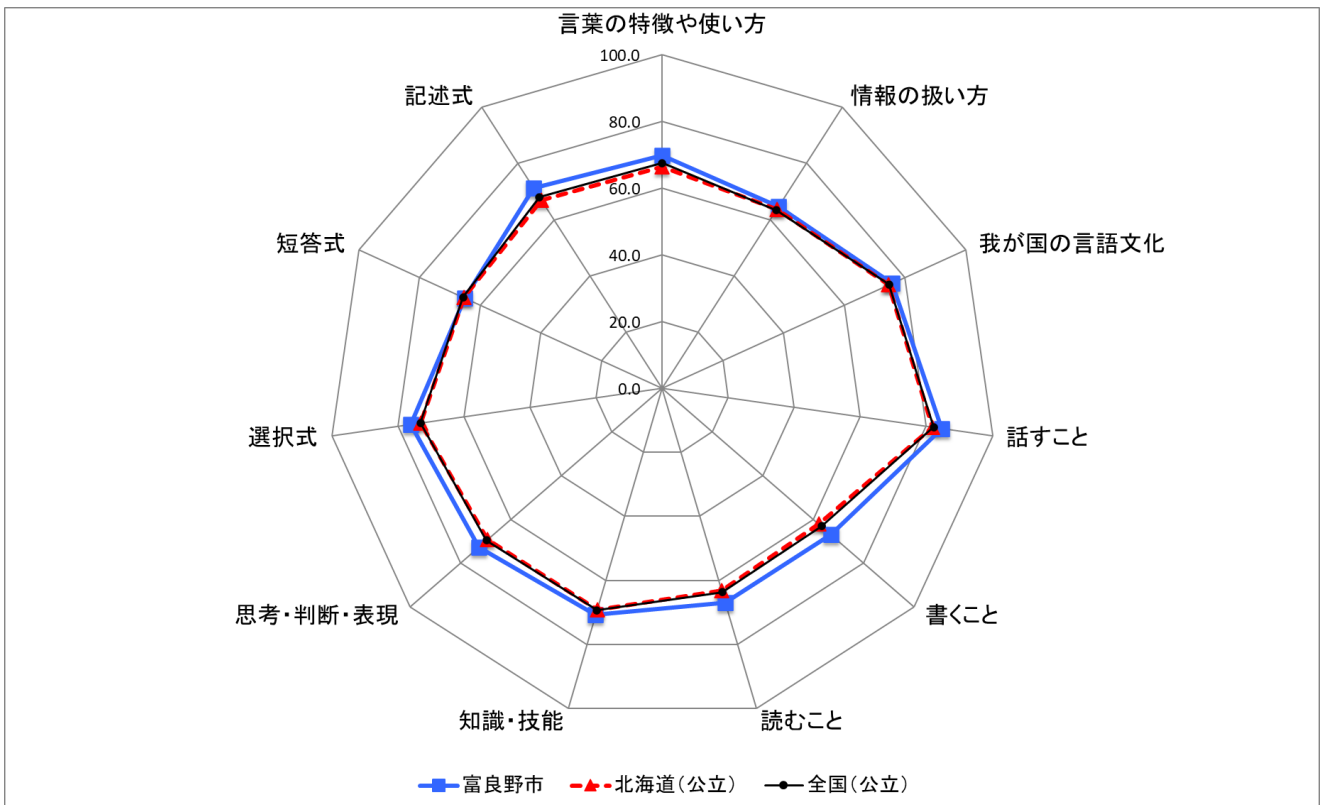
データの活用

- ◇「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることはできている。
- ◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを記述することに課題がある。



指導改善のポイント

複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導することが大切である。



〈調査結果のポイント〉

- ◇聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。
- ◆情報と情報との関係について理解することに課題がある。

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ◇事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている。
- ◆文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。



指導改善のポイント

漢字の書きについては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導することが大切である。

なお、1人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができるように指導することも重要である。

情報の扱い方に関する事項

◆意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題がある。



指導改善のポイント

相手の意見を理解したり自分の意見を述べたりするためには、原因と結果、意見と根拠などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導することが大切である。

また、考えとともに考えの拠り所となる事例が示されているかを確認するなど、話や文章の中に示されている考えと、それを支える根拠との関係を明らかにすることができるように指導することが大切である。

話すこと・聞くこと

◇目的や場面に応じて質問する内容を検討することや、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。

◆話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することに課題がある。



指導改善のポイント

話し手に質問する際に、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるように指導することが大切である。

読むこと

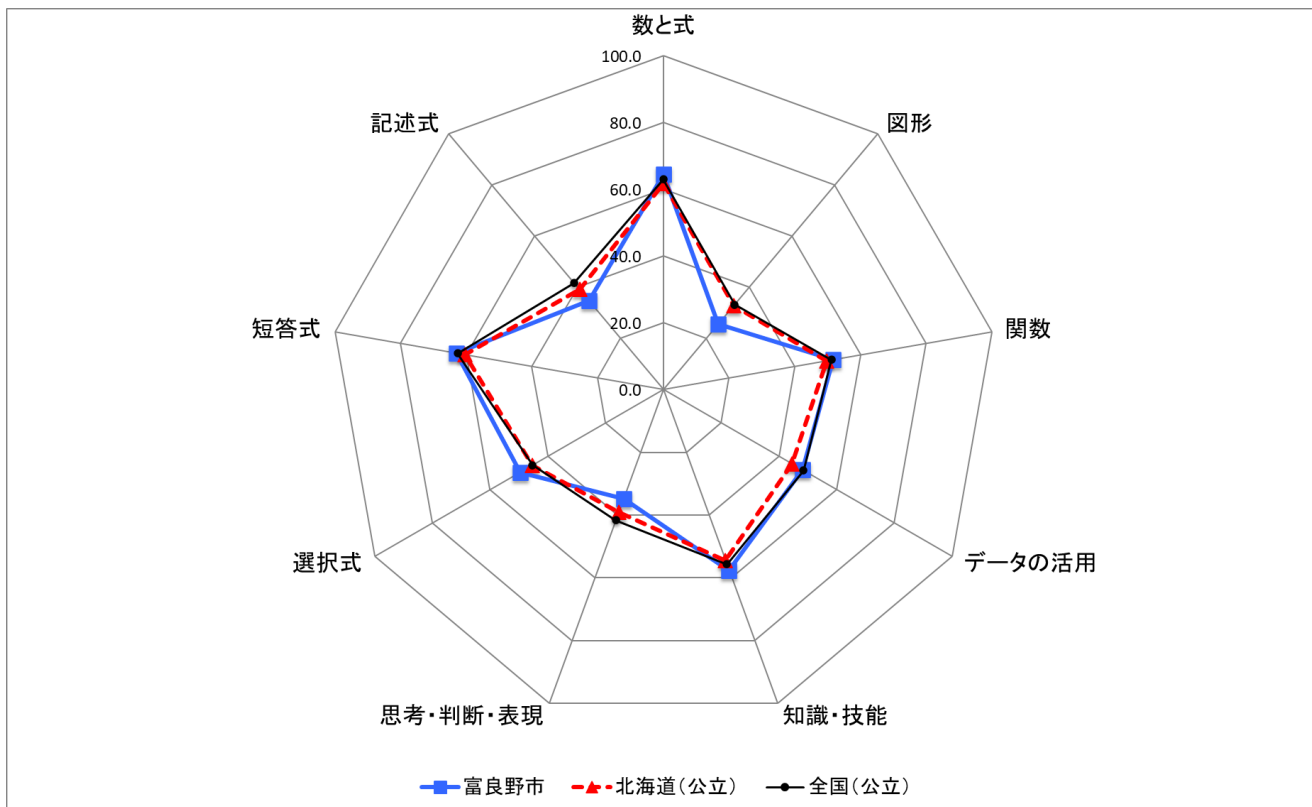
◇文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することについては、改善の状況が見られる。

◆観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることに課題がある。



指導改善のポイント

文章で述べられている内容を確認した上で、文章のどの部分にどのような表現の工夫が見られるかを捉え、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることができるように指導することが大切である。



〈調査結果のポイント〉

- ◇基礎的・基本的な計算技能は身に付いていると考えられる。
- ◆問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題がある。

●学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

数と式

- ◇数と整式の乗法の計算をすることはできている。
- ◆結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明することに課題がある。



指導改善のポイント

事柄が成り立つことの説明を振り返り、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動を取り入れることが大切である。前提を変えた場合について、成り立つ事柄を予想してその予想が成り立つかどうかを調べたり、既に解決された問題の解決過程や結果を振り返って問題の前提と結論を関連付けて捉えたりするなど、発展的に考察することができるように指導することが大切である。

図形

- ◆空間における平面が同一線上にない3点で決定されることの理解に課題がある。
- ◆条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。



指導改善のポイント

ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるように指導することが大切である。

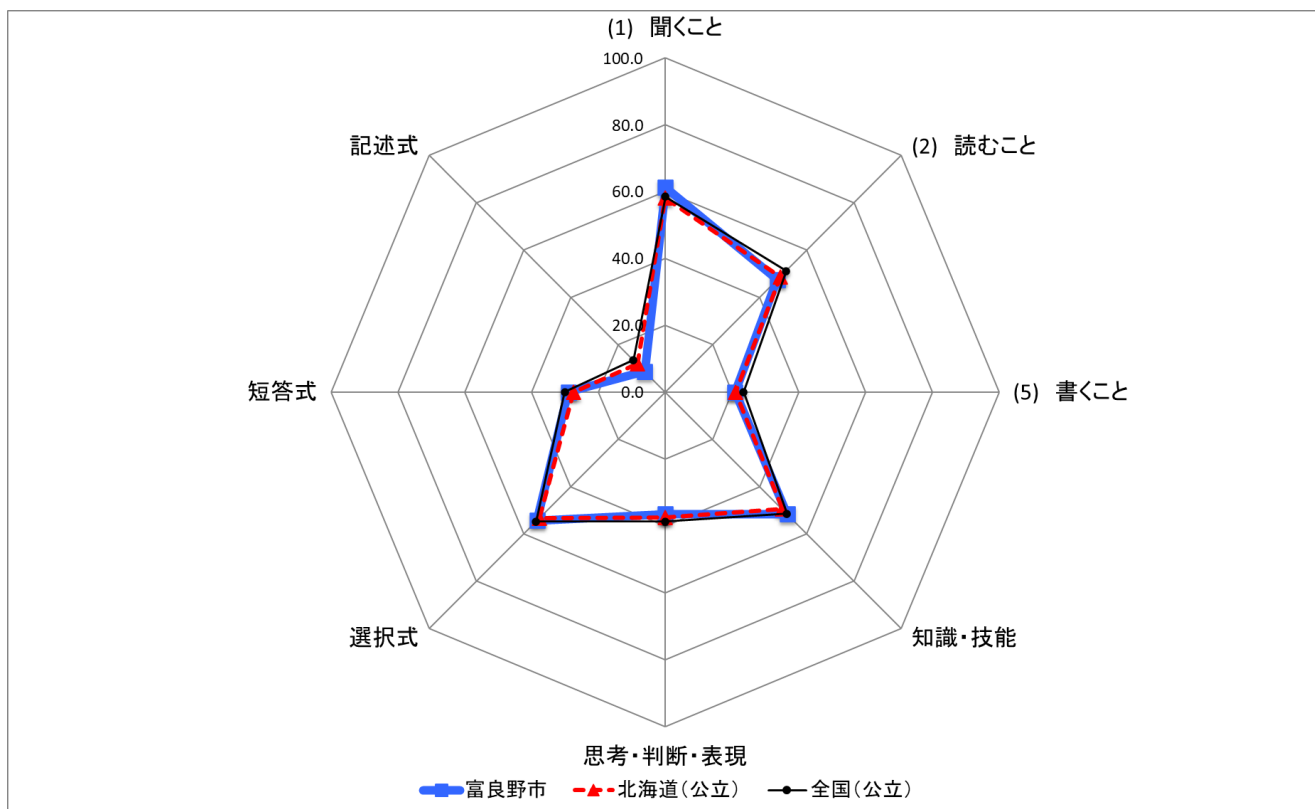
関数

- ◆事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することに引き続き課題がある。
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。



指導改善のポイント

数学を活用して様々な問題を解決できるようにするために、表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらをどのように用いたかについて数学的に説明できるように指導することが大切である。



〈調査結果のポイント〉

- ◇ 日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできている。
- ◆ 日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題がある。

● 学習指導要領の内容の主な特徴と指導改善のポイント

聞くこと

- ◇ 日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ることはできている。
- ◆ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題がある。



指導改善のポイント

自分の置かれた状況を把握し何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を聞き取ることができるように指導することが重要である。

読むこと

- ◇日常的な話題について、文と文との関係を正確に読み取ることはできている。
- ◇日常的な話題について、事実と考えを区別して読むことはできている。
- ◆日常的な話題に関する文章の概要を捉えることに課題がある。



指導改善のポイント

「概要を捉える」とは、物語や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることのおおまかな内容を捉えることである。指導に当たっては、説明文を読んで、概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることができるようにすることが大切である。

書くこと

- ◆社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くことに課題がある。



指導改善のポイント

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現することが重要である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切である。その際、なぜそのような考えたのかという理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりするといった取組が効果的である。

4 質問紙調査結果（児童生徒、学校）

※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。

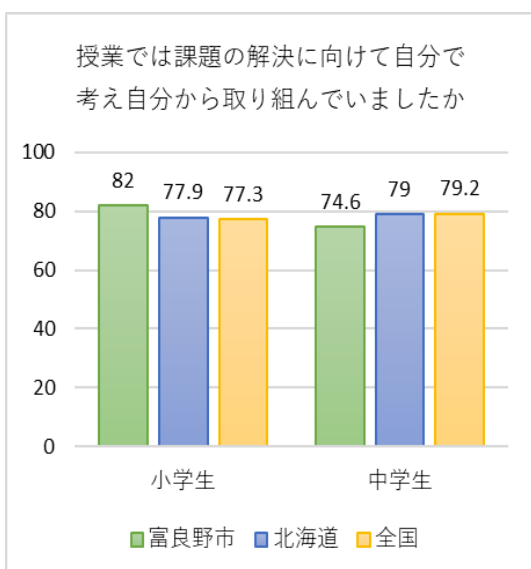
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

分析結果のポイント

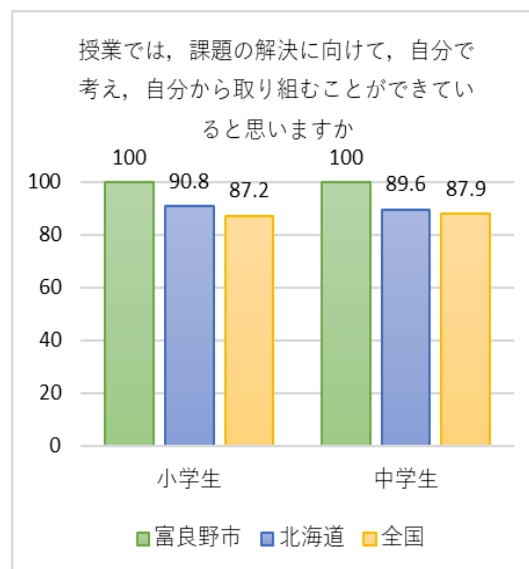
- 昨年度までと同様、各学校において、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が実施されている。また、主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。
- 昨年度までと同様、個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する取組が実施されている。

① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

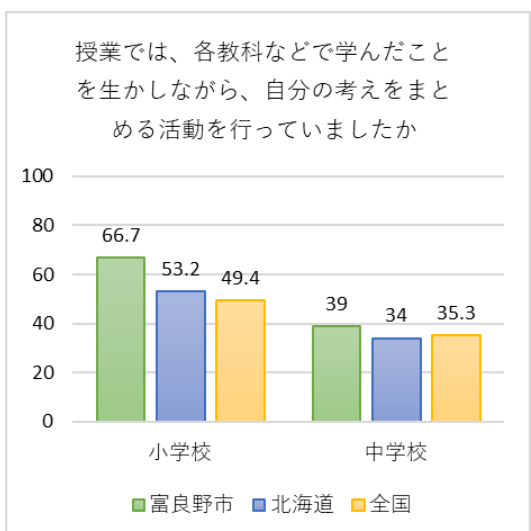
〔児童生徒質問紙〕



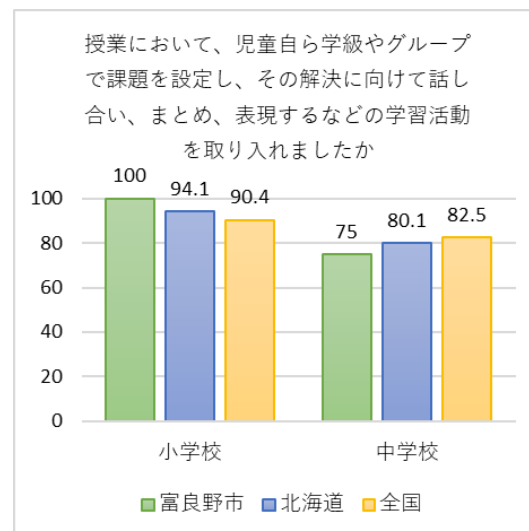
〔学校質問紙〕



〔児童生徒質問紙〕

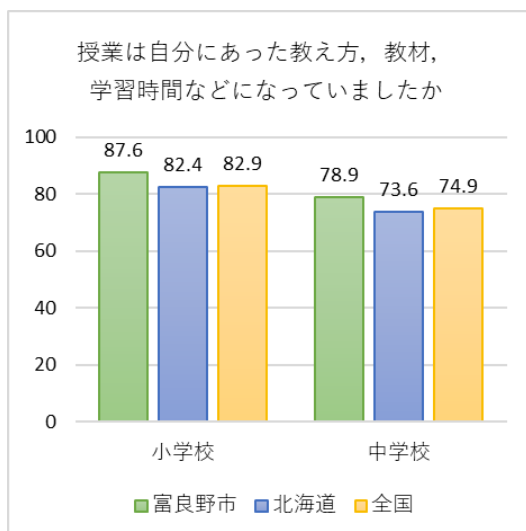


〔学校質問紙〕

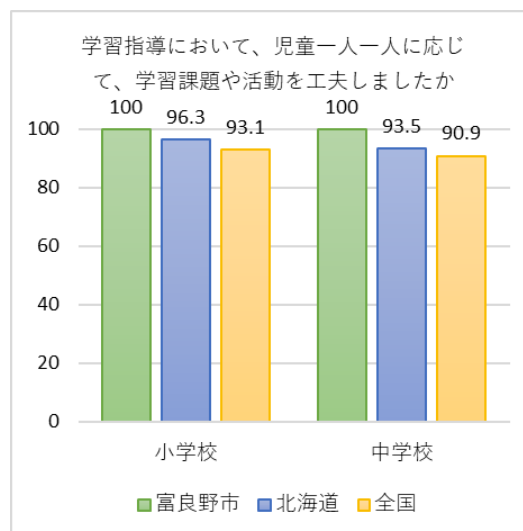


② 個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況

〔児童生徒質問紙〕

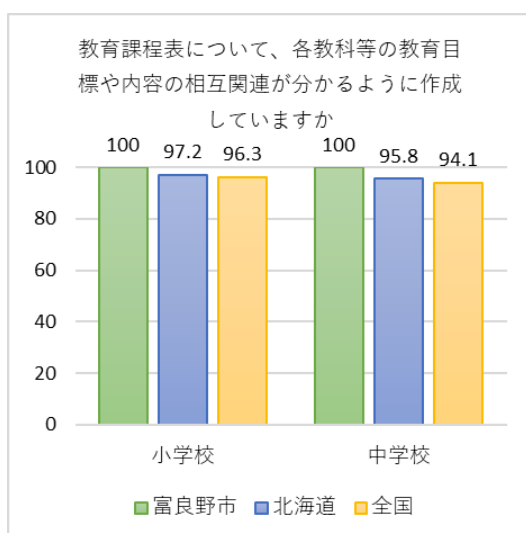


〔学校質問紙〕

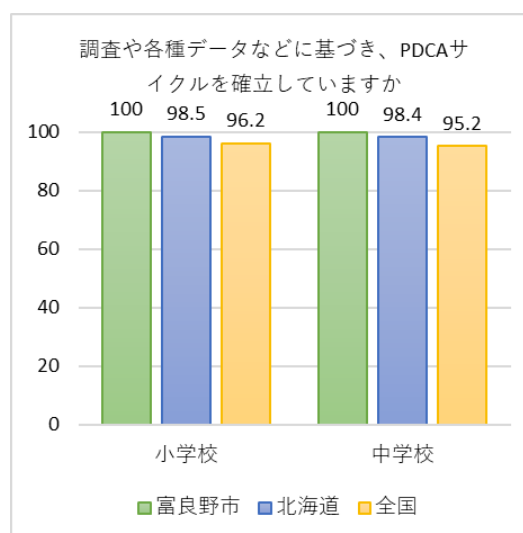


③ カリキュラム・マネジメントに関する取組状況

〔学校質問紙〕



〔学校質問紙〕



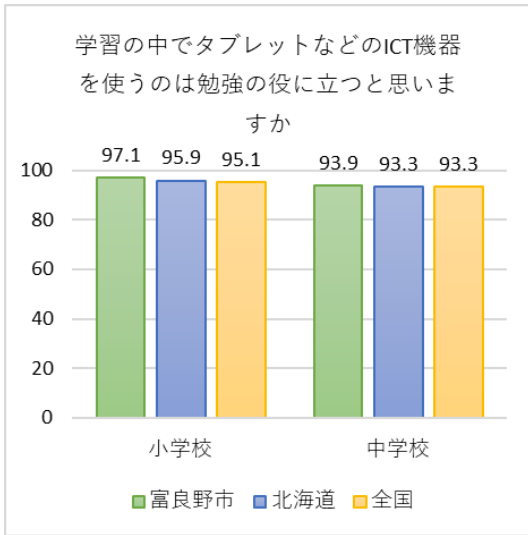
(2) ICTを活用した学習状況

① ICTの活用状況等

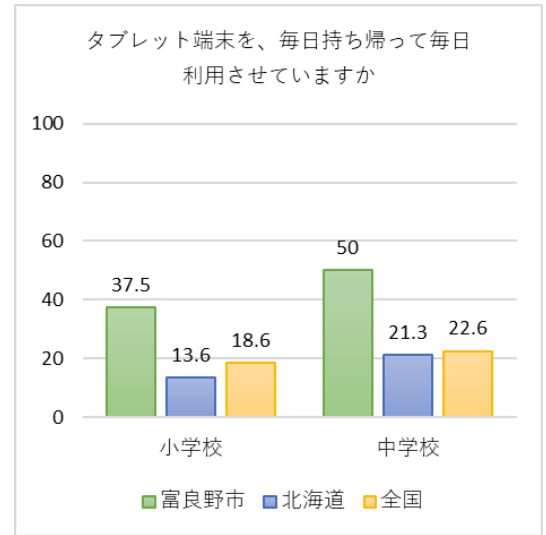
分析結果のポイント

- ICT機器の活用が進んでいる。授業においてICT機器を「週1回以上」活用している割合は、昨年度より小中学校ともに増加している。
- ICT機器が、不登校児童生徒や特別な支援を要する児童生徒や児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されてきている。

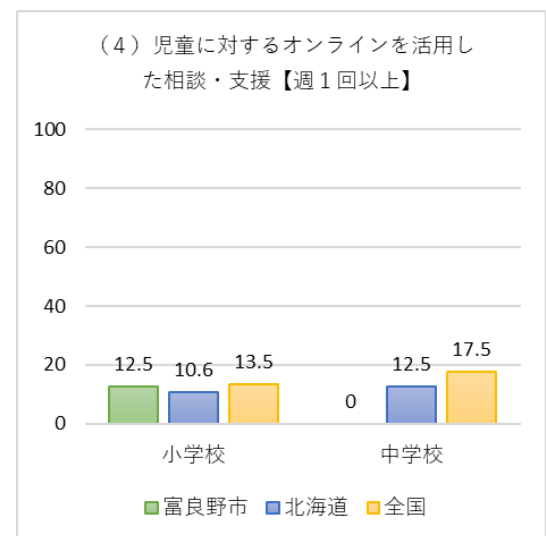
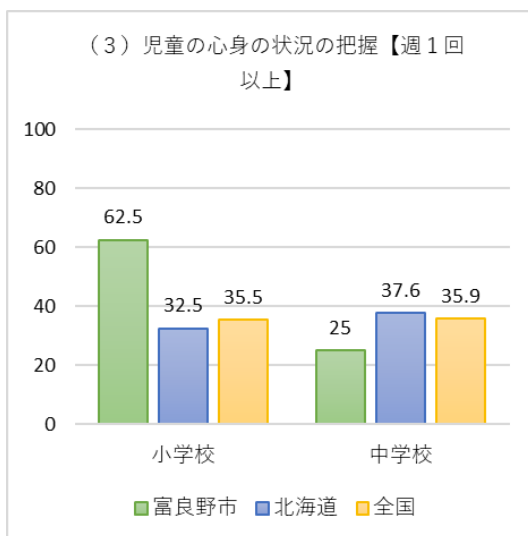
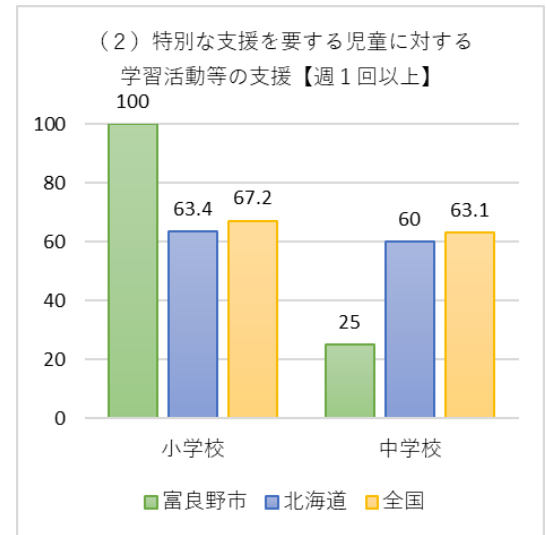
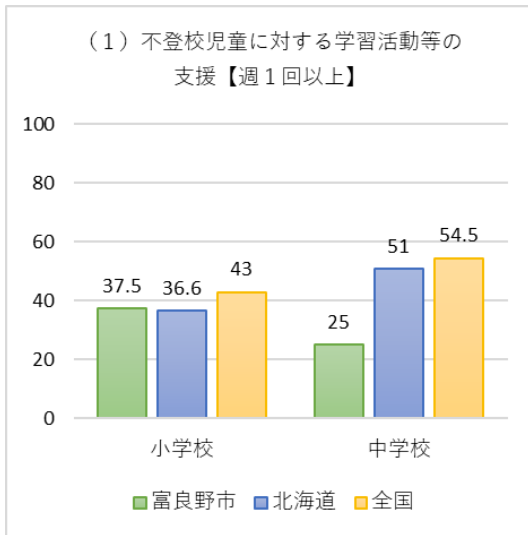
〔児童生徒質問紙〕



〔学校質問紙〕



〔学校質問紙〕

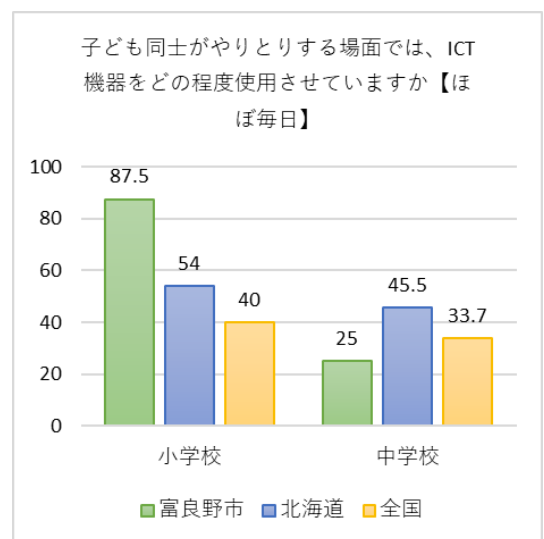
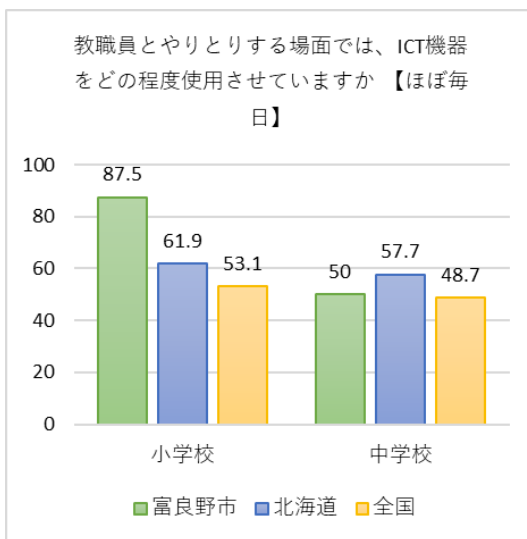
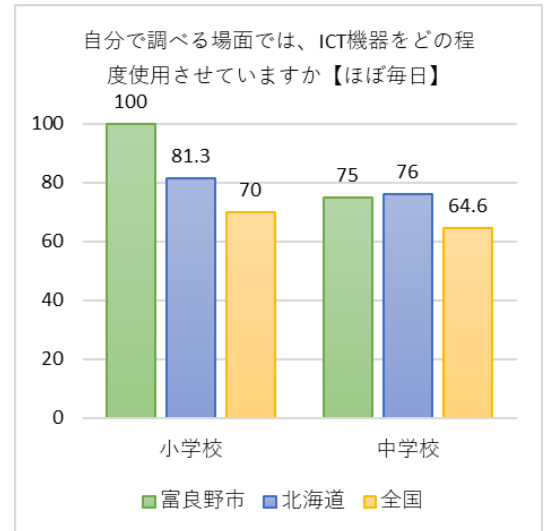
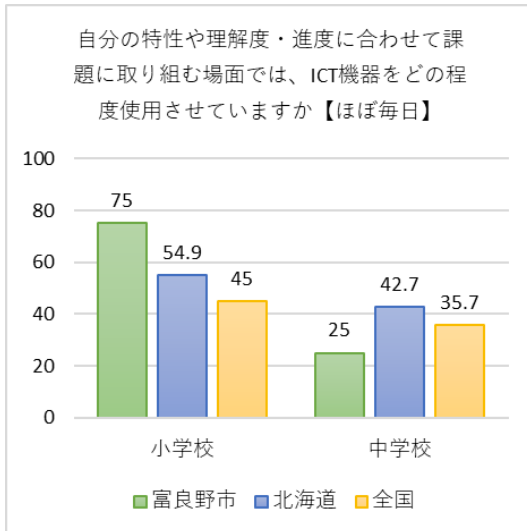


② 個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用状況等

分析結果のポイント

- 個に応じた指導など、授業における様々な場面でICT機器が活用されている。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行っている学校ほど、ICT機器を活用している傾向が見られる。

〔学校
質問紙〕



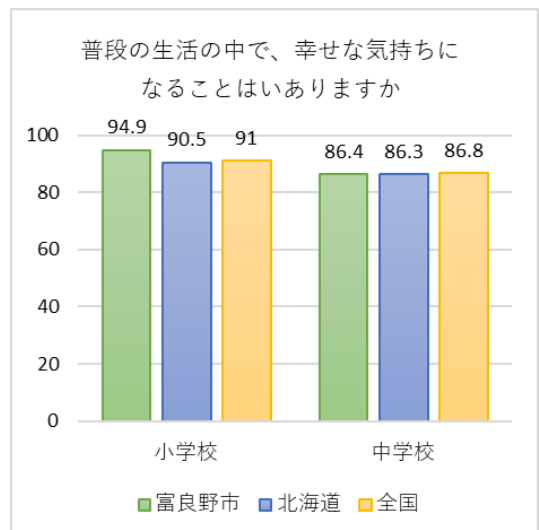
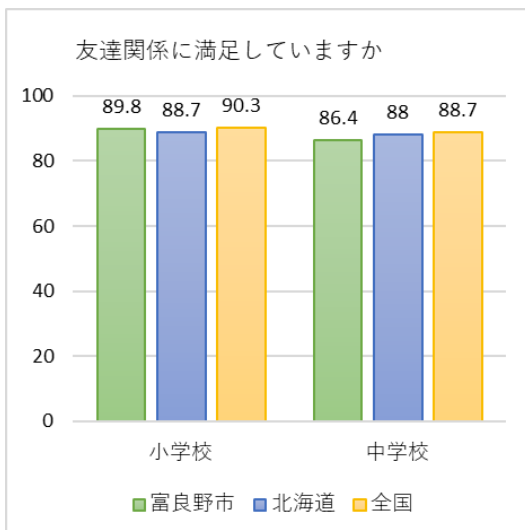
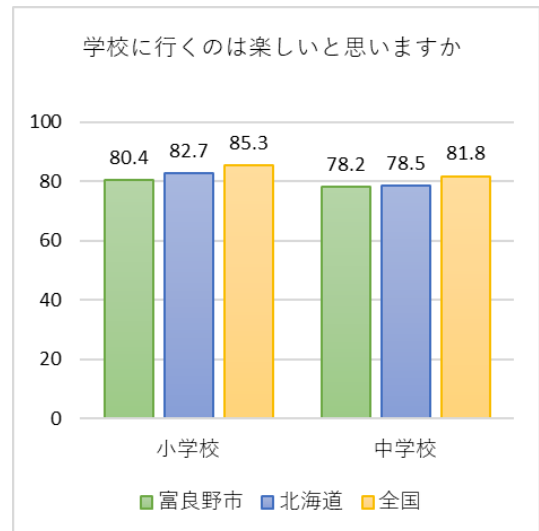
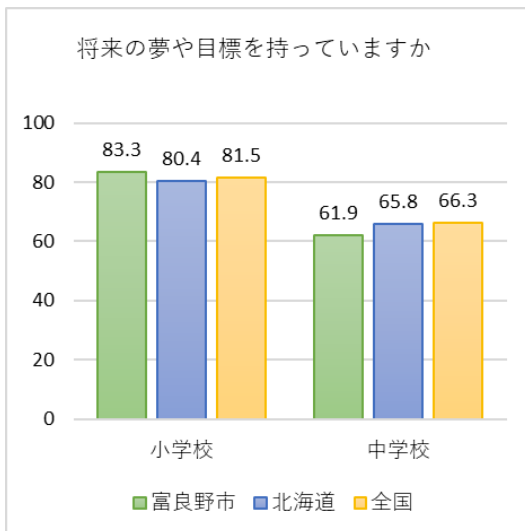
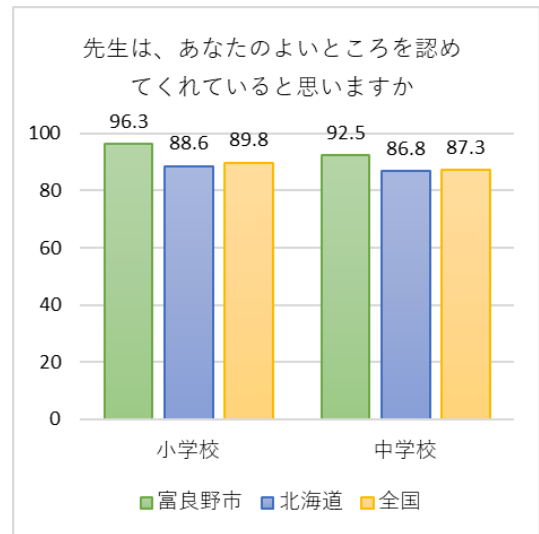
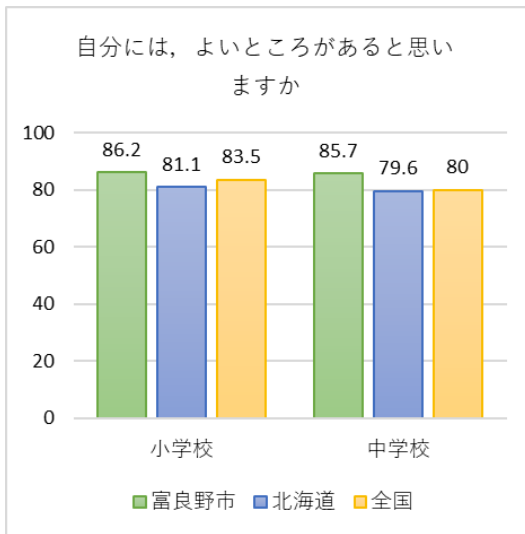
(3) 児童生徒の自己有用感、幸福感等に関する状況、学習、読書等

分析結果のポイント

- 基本的な生活習慣は概ね身に付いているが、家庭学習への取組（学習時間、学習計画）は、小学校、中学校ともに課題がある。「〇〇の勉強は好きですか」との間については「〇〇の授業の内容はよくわかりますか」より低くなっている。
- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との間に対して、約90%の児童生徒が肯定的に回答している。

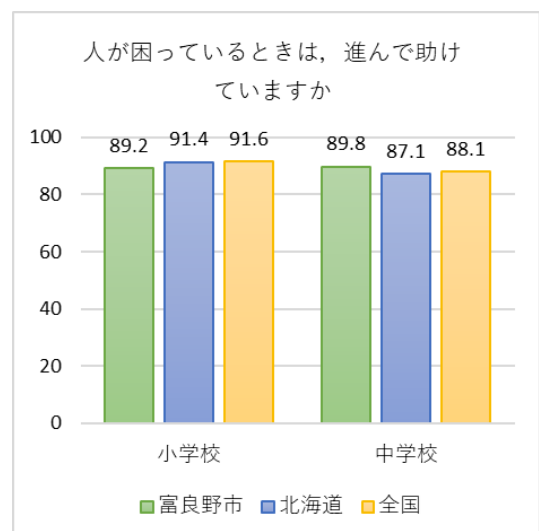
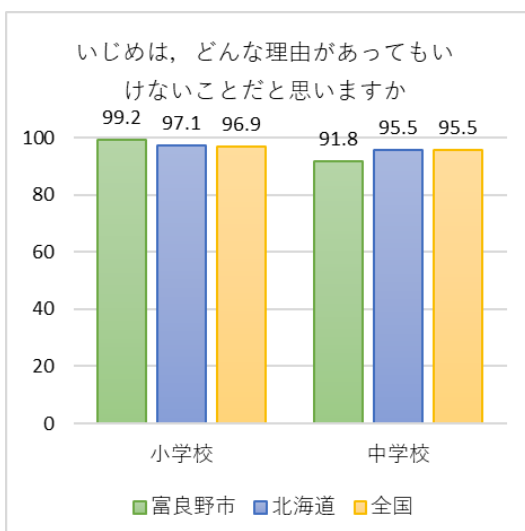
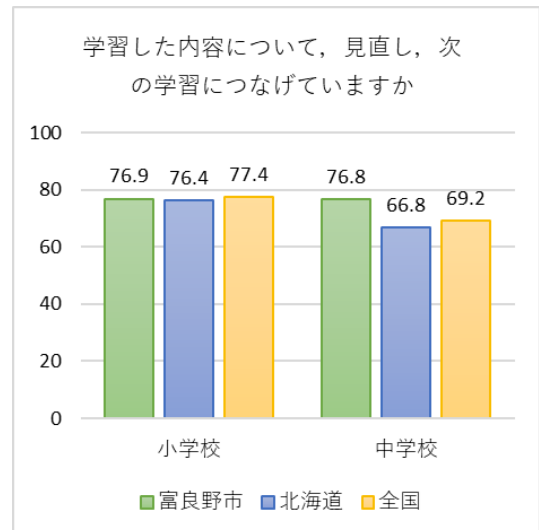
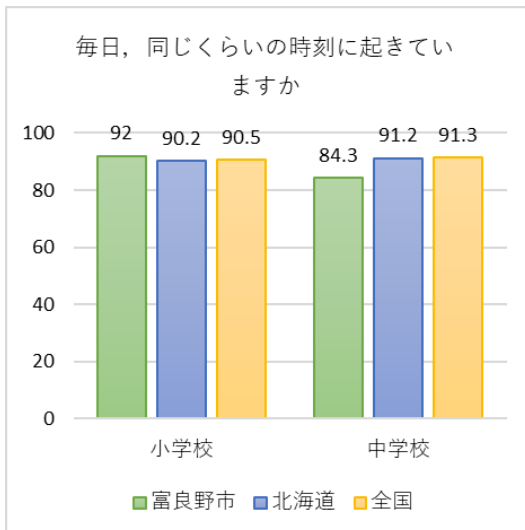
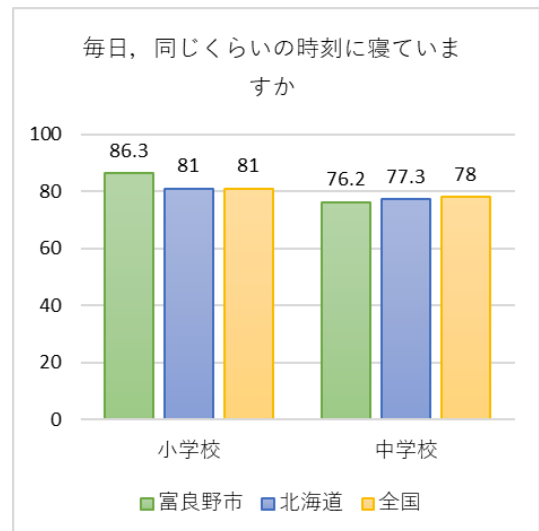
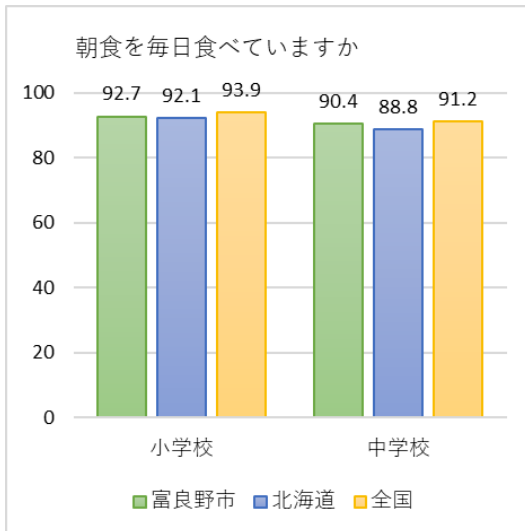
① キャリア教育・自己有用感等

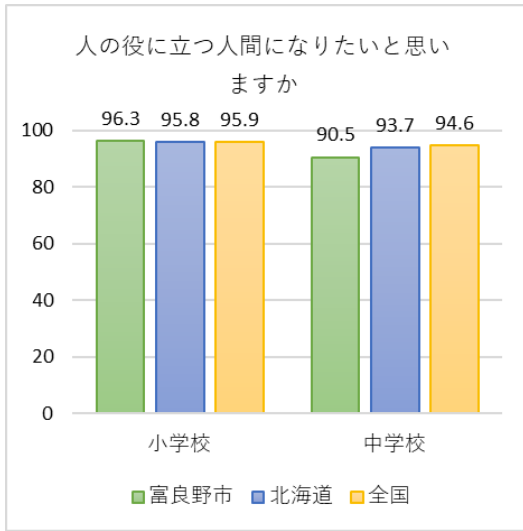
〔児童生徒質問紙〕



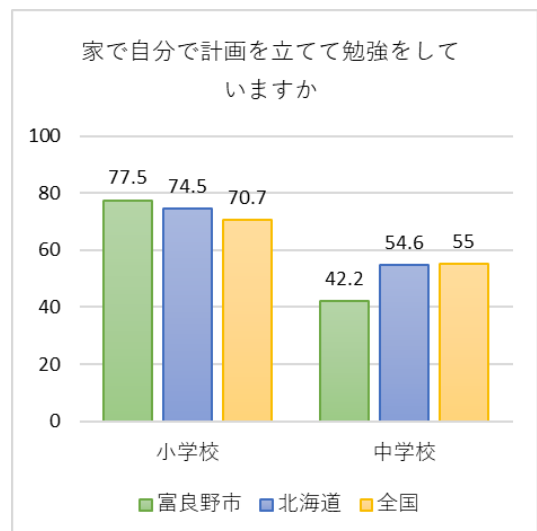
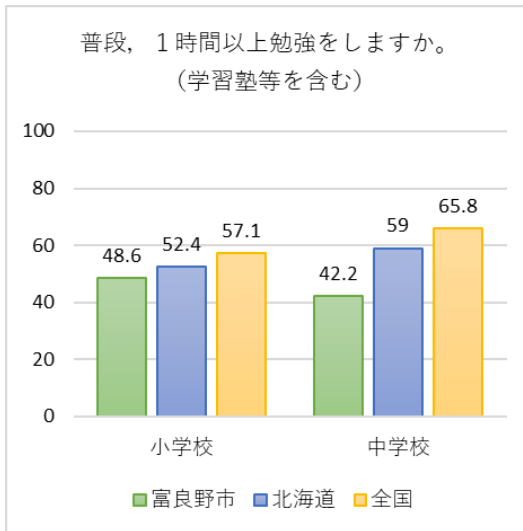
② 基本的な生活習慣、規範意識等

〔児童生徒質問紙〕



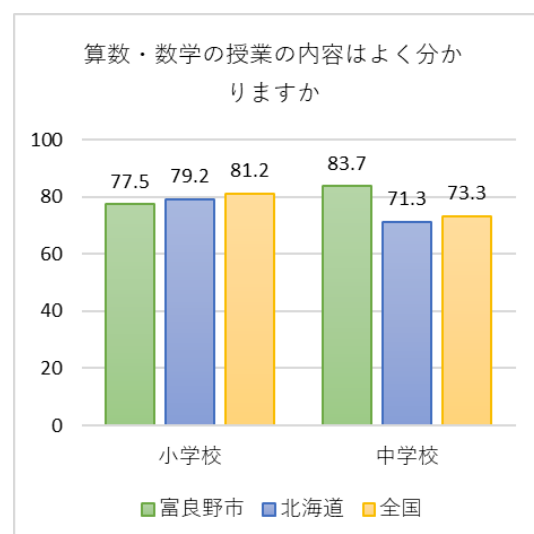
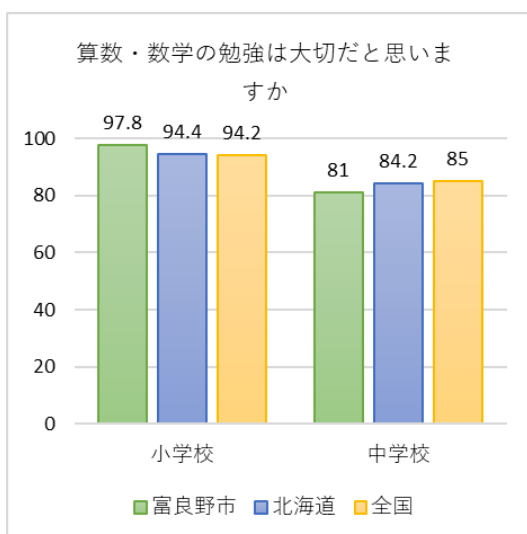
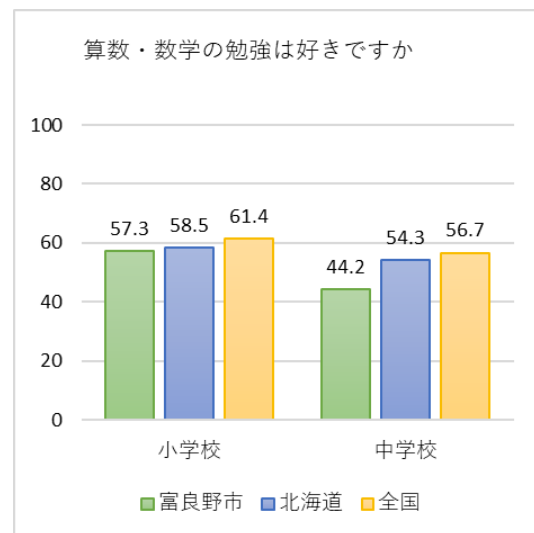
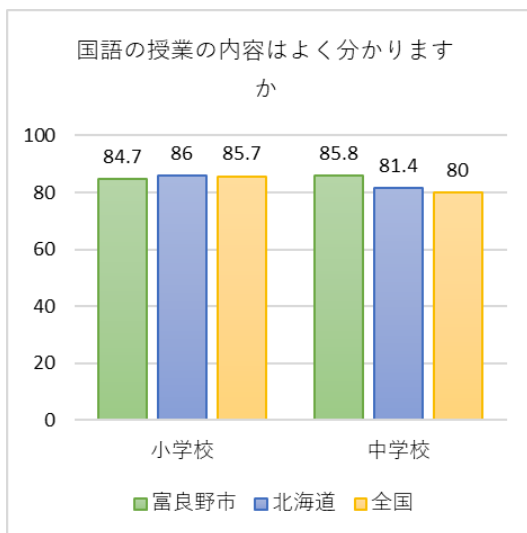
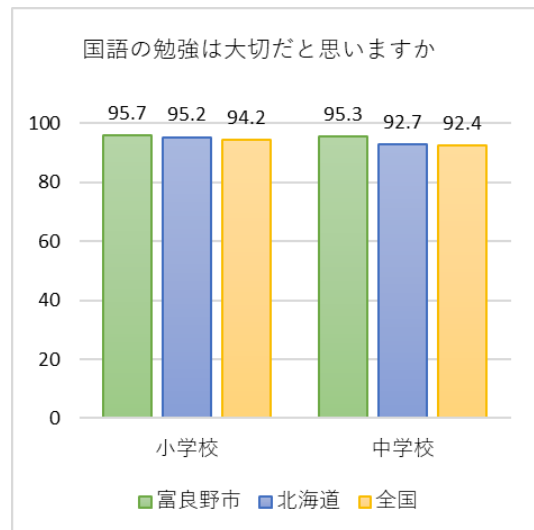
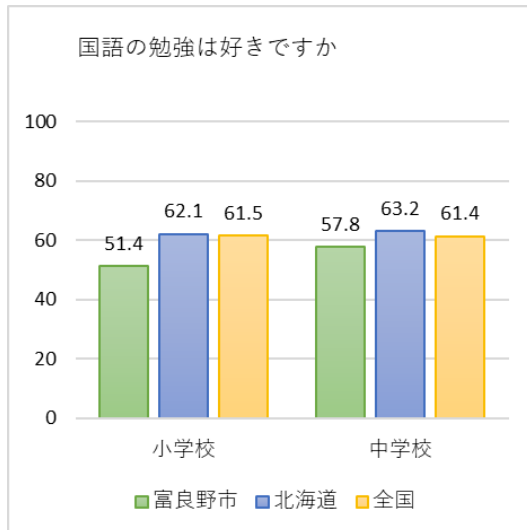


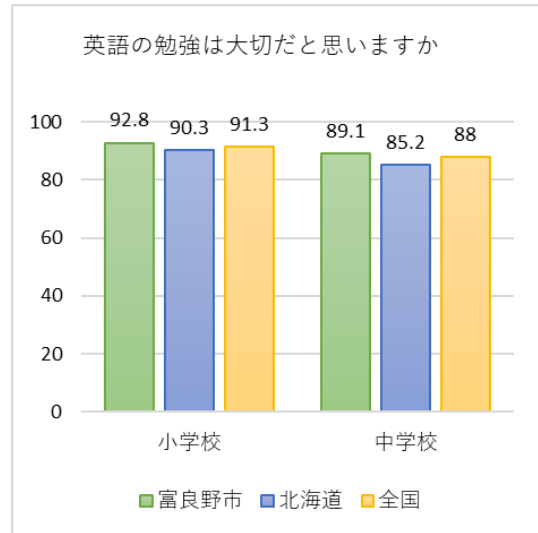
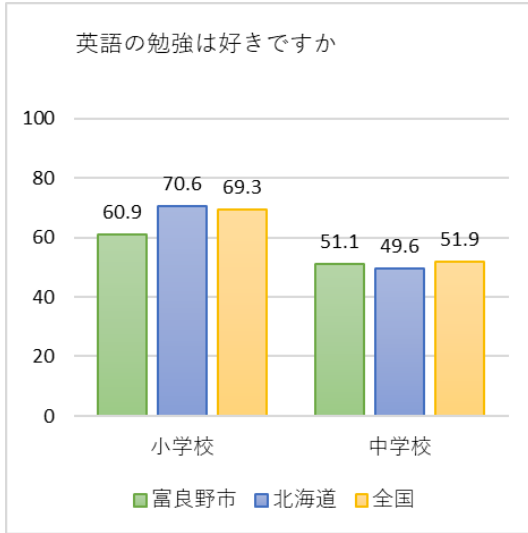
③ 家庭学習等



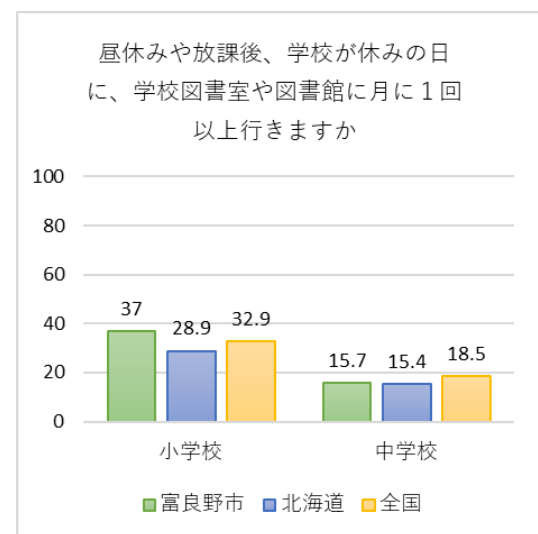
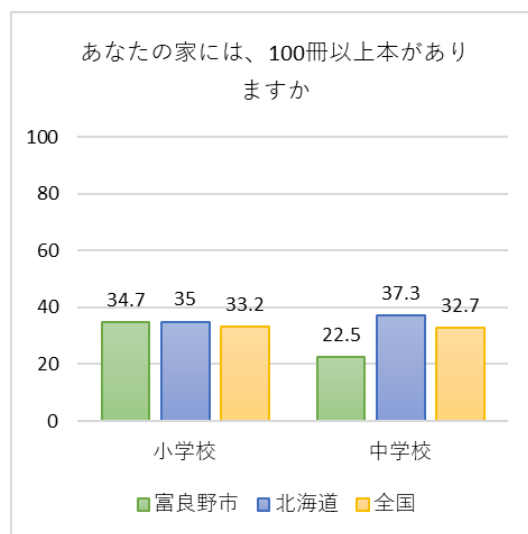
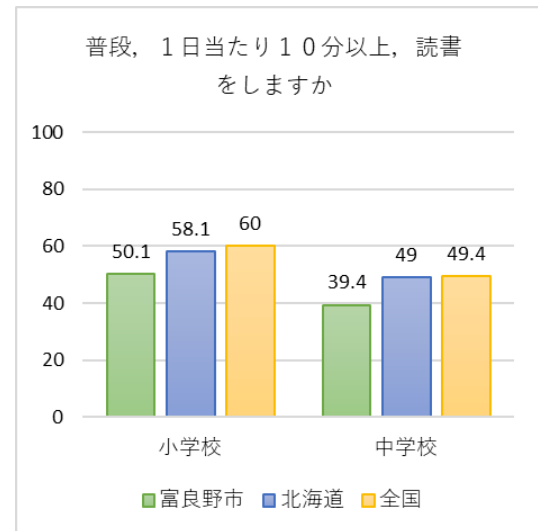
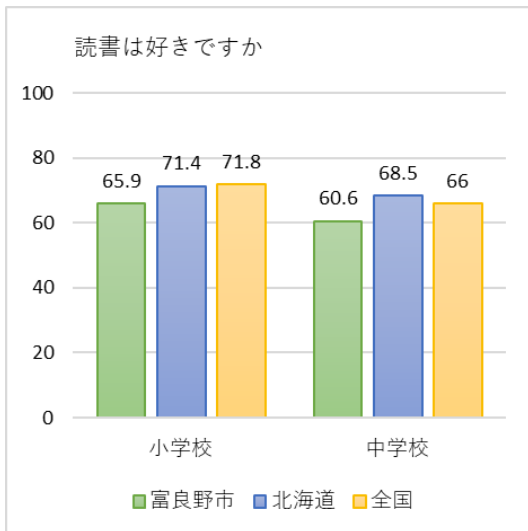
④ 各教科について

〔児童生徒質問紙〕



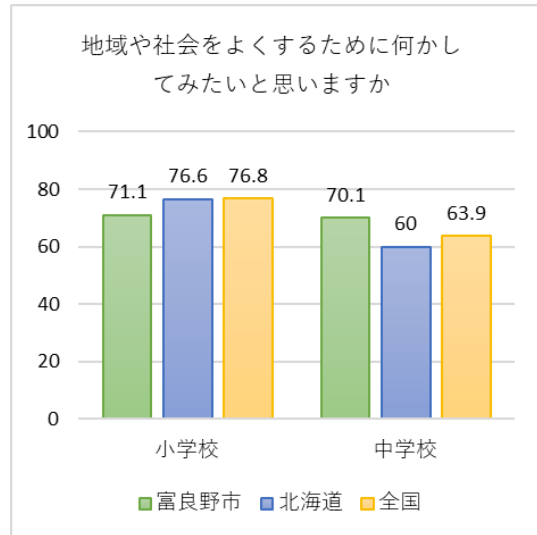
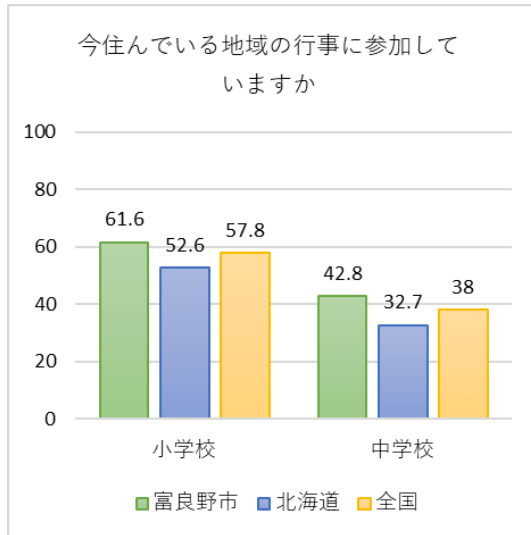


⑤ 読書環境等について



⑥ 地域参加

〔児童生徒質問紙〕



5 改善のポイント

**学校では、子どもたち一人一人の学びをしっかりと支え、
誰ひとり取り残さない教育を目指します**

- 学校全体で学力向上に向けた取り組みを組織的に推進していくため「学力向上推進委員会」を組織し、子どもたちの状況をきめ細かく把握し、指導の改善充実を図っていきます。
- 1時間ごとの授業を大切にし、授業ごとに身に付けるべき資質・能力を明確にし、単元や題材などのまとまりを見通して到達させるための手立てを講じていきます。
- 根拠に基づいて考えを書いたり話したりする場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。
- 授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、実態に即した意図的な働きかけをしていきます。
- 児童生徒が「分かった、できた」を実感し、主体的に学びを進めることができるように授業の最後に「まとめ」と「振り返り」を位置付けていきます。
- 学校での学習の効果を高めるため、児童生徒の家庭学習の状況を的確に把握し、児童生徒や保護者に対して適切に支援するとともに、学習内容の確実な定着や家庭での学習機会を確保するための家庭学習や課題を設定します。

6 保護者・地域の皆様へ

子どもの学力については、学校が責任をもって取り組んでおり、教員の指導力向上に向け授業公開や授業研究等、全力を挙げて推進しております。この大前提を押さえた上で、学校での学ぶ力を支えるとともに、もっと大きな意味で、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、学校と家庭、地域が力を合わせて、「家庭学習の習慣をつけるとともに、子どもの学びに対する興味や関心を広げること」が極めて大切です。

家庭学習を定着させるには、「学び」の土台となる「早寝早起きをする」「挨拶をする」「家事を分担する」などの家庭での教育が重要です。

進んで学ぼうとする力は、『子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日学習に取り組む』ことで育ちます。

大人はもう一度足もとを見直し、決してその時々気分や感情に流されず、大人としての責任を自覚して、家庭学習の充実を目指しましょう。改めるべきことは改め、当たり前のことは、当たり前のこととして推し進めるとともに、家庭を学びの環境に整えていきましょう。